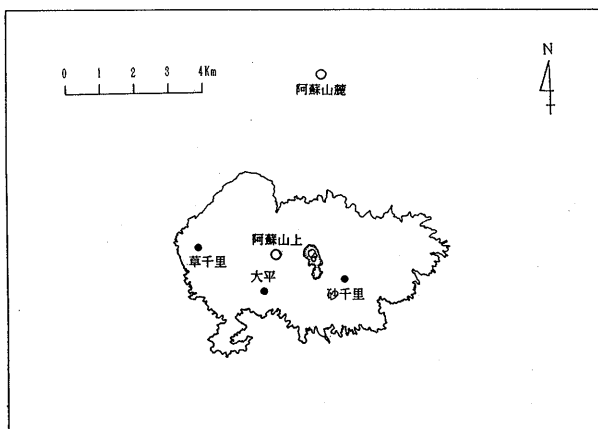


(1979年3月~1992年4月)

地磁気観測所（鹿屋）では、1979年3月から阿蘇山およびその周辺で地磁気全磁力連続観測ならびに全磁力繰り返し観測を行ってきた。これらの観測のうち、1992年1月までの観測結果については既に報告している¹⁾²⁾。今回は、1992年4月までの地磁気全磁力連続観測の結果を報告する。

第1図に阿蘇山火口周辺の観測点の配置図を示す。白丸(○)が連続観測点(阿蘇山麓, 阿蘇山上), 黒丸(●)は繰り返し観測点である。



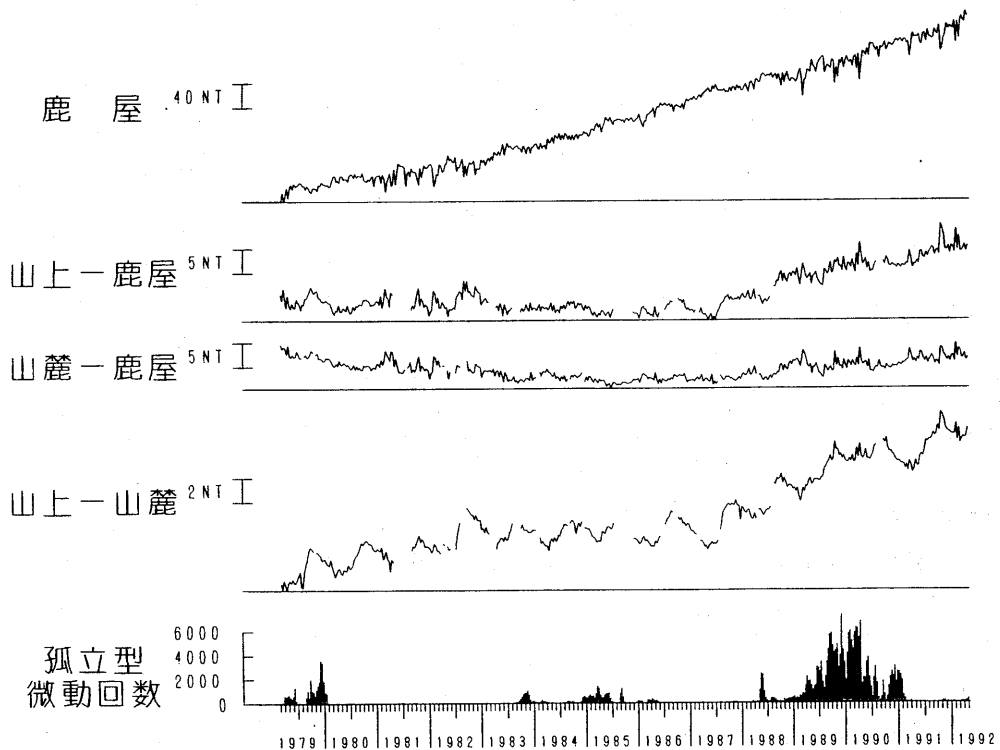
第 1 図 阿蘇山火口周辺での地磁気観測点の分布

Fig.1 The distribution of observation points.

第2図は1979年3月～1992年4月までの阿蘇山上と阿蘇山麓の連続観測の結果を示しており、上から鹿屋の地磁気全磁力夜間値(00～02時)と阿蘇山上、阿蘇山麓、鹿屋の各観測点の相互差および孤立型微動回数(JMAによる)である。第2図上から4段目の阿蘇山上一阿蘇山麓の相互差は、1987年後半頃から1988年・1989年にかけて約4 nTの増加を示し、その後増加傾向が鈍り1990年頃からは横ばい傾向にあったが、1991年後半頃からやや増加に転じた^{1) 2)}。その後の阿蘇山上一阿蘇山麓の相互差を見ても同じ傾向が続いているように見える。

これまでも述べてきたように^{1) 2)} 1987年後半から1989年にかけての全磁力の増加は、1989年から1990年をピークとする噴火活動に前駆した変化と考えられる。1991年後半から阿蘇山上と阿蘇山麓

* Received 13 July, 1992



第 2 図 地磁気全磁力夜間値の相互差（阿蘇山上一鹿屋，阿蘇山麓一鹿屋，阿蘇山上一阿蘇山麓）の旬平均値変化

Fig.2 Secular variation in their ten days means of differences in night time geomagnetic total force intensity between Asosanjo and Kanoya, Asosanroku and Kanoya, Asosanjo and Asosanroku. (March 1979 - April 1992).

の全磁力相互差は、再び増加の傾向にあり、一方、阿蘇山測候所発表の定期火山情報からも阿蘇山の火山活動は1992年1月から活動に変化が現れはじめ、その後も活発化の様相にある。今後の全磁力の変化と火山活動の動向に注意して行きたい。

参 考 文 献

- 1) 気象庁地磁気観測所(1991)：阿蘇山における地磁気観測(XVI)，噴火予知連会報，51，46 - 48.
- 2) 気象庁地磁気観測所(1992)：阿蘇山における地磁気観測(1979年3月～1992年1月)，噴火予知連会報，52，24 - 26.